Arts Towada 十周年記念「インター + プレイ」展

- 遊ぶ、演じる、こだまする アートがつなぐ人と街 -

第1期:2020年4月18日(土) - 2020年8月30日(日) 十和田市現代美術館 【第2期:2020年9月19日(土) - 2021年1月11日(月) / 第3期:2021年1月23日(土) - 2021年5月30日(日)】



「非常にはっきりとわからない」展示風景(千葉市美術館)※参考作品

十和田のまちを美術館にするプロジェクト "Arts Towada" が 10 周年を迎えるのを記念して開催する、一年間の展覧会「インター + プレイ」展。その第 1 期 [2020 年 4 月 18 日 (土) - 8 月 30 日 (日)] がいよいよ開催間近となりました。

新しい創造を生みだし、インスピレーションの源泉となってきた Arts Towada の中核、十和田市現代美術館は、アートを通じて人と人、人とまちが出会う、インタープレイ(相互作用)の現場であり続けてきました。本展は、その精神を体現するものです。通年展示として、身近なものをモチーフに私たちの五感を刺激する作品をつくる鈴木康広が、ベンチにもなる大型の野外彫刻を制作。引力をもち、そのパワーが外側へと広がっていく十和田の姿を表現します。また、近年芸術祭や大規模個展で注目を集めている目 [mé] は、まちなかの建物に真っ白なギャラリー空間を唐突に出現させます。

美術館内では、鏡とビデオカメラとプロジェクターを使い、見る人の感覚を撹乱する津田道子のインスタレーション、音に身をゆだね 溶け込んでいく感覚をもたらす evala の作品、十和田での滞在調査を踏まえ〈赤〉をテーマに制作される松原慈の新作を展示します。 会期中盤には問題行動トリオが美術館の展示室で、音楽とダンスの公演を行います。

- 通年展示・・・鈴木 康広 [十和田市現代美術館 前庭部分に展示予定] 、目 [mé] [十和田市まちなかに展示予定]
- パフォーマンス・・・問題行動トリオ (野村 誠+佐久間 新+砂連尾 理) [会期ごとに1回ずつ開催予定]
- 第1期出展作家···津田 道子、evala、松原 慈

本展の見どころ

- 1. 美術館の外に飛び出す鈴木康広の野外彫刻や、目 [mé] によるまちなか展示
- 2. 新しい感覚を呼び覚ます津田道子・evala・松原慈の室内展示
- 3. 問題行動トリオが美術館で初の実験的音楽・ダンス公演



【 第1期の見どころ 】

1. 美術館の外に飛び出す鈴木康広の野外彫刻や、目 [mé] によるまちなか展示

十和田市現代美術館の前庭に、鈴木康広による野外彫刻が出現します。これは十和田市の形をした切り株型のベンチで実際に腰掛けることができます。十和田の引力に引き寄せられ落ちてきたりんごのつくる波紋が、十和田の外にも広がっていくイメージです。現代アートチームの目 [mé] は、まちなかの建物に、突然美術館の一室が飛んできてスポッとはまったかのような作品を作ります。美術館がまちに広がっていったような作品です。

2. 新しい感覚を呼び覚ます津田道子・evala・松原慈の室内展示

企画展示室では、いずれも来場者がその中に没入するような、新しい感覚の展示を行います。津田道子の展示は鏡とビデオカメラとプロジェクターと素通しの枠が設置されており、その間を歩いていくとふとした瞬間に自分の後ろ姿が見えたりする、視界を撹乱するような作品。evala は音に身体が溶けていくような、没入感のあるサウンドインスタレーションを展示します。松原慈は十和田湖の岩肌や地底の下でいまも燃え盛る炎からインスピレーションを得ました。赤を基調にした展示は、体内と地球が響き合うような体験をもたらします。

3. 問題行動トリオが美術館で初の実験的音楽・ダンス公演

音楽家の野村誠、ジャワ舞踊家の佐久間新、コンテンポラリーダンサー砂連尾理の 3 名が、音楽とダンスで「問題行動」に迫るプロジェクト。3 名はそれぞれ、世界中で人や空間と関わり合い独自の表現を生み出しています。今回は、美術館の展示空間とコラボレーション。普段は入ることのできない夜の美術館に潜り込み、展示作品と空間と対話しながら実験的なパフォーマンスを展開します。何が起こるかわからない、壮大な遊びを体験してください。

【 第1期 関連イベント 】

■ 第1期、本展出展作家による、オープニングトーク

日 時:4月18日(土)14:00-16:00

会場:十和田市現代美術館市民活動スペース/料金:無料※要企画展チケット

■ 松原慈 レクチャーパフォーマンス「赤の謎かけ」+金澤韻(本展キュレーター)との対談

日 時:4月19日(日)14:00-

会 場: 十和田市現代美術館 市民活動スペース / 料 金: 無料 ※要企画展チケット

■ 問題行動トリオ パフォーマンス「8時ダよ!問題行動」

日 時:6月27日(土)20:00-

会 場:十和田市現代美術館 展示室 / 料 金:2,000円

■ 問題行動トリオ ワークショップ

日 時:6月28日(日)10:30-15:15

●10:30-11:30 砂連尾理 ●13:00-14:00 野村誠 ●14:15-15:15 佐久間新

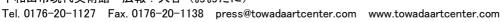
会 場:十和田市現代美術館 市民活動スペース / 料 金:500円(各回ごとに)/ 定員:30名(事前受付優先)

※各イベントの詳細は後日 Web サイトで発表いたします。

日時、内容が変更する可能性もありますので最新情報は随時 Web サイトでご確認ください。



十和田市現代美術館 広報:大谷(おおたに)





【 出展作家プロフィール & 参考作品 】

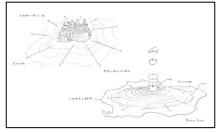
■ 通年展示

鈴木 康広 (すずき・やすひろ)



アーティスト。1979 年静岡県生まれ。身近なものに新鮮な切り口を与える作品によって、ものの見方や世界のとらえ方を問いかける活動を続けている。2014 年に水戸芸術館、2017 年、箱根 彫刻の森美術館にて個展を開催。瀬戸内国際芸術祭 2010 に出展した《ファスナーの船》は、2018 年には隅田川を航行し話題に。2011 年、第 4 回モスクワビエンナーレ出展。第 1 回 ロンドン・デザイン・ビエンナーレ 2016 日本代表。2014 毎日デザイン賞受賞。武蔵野美術大学准教授、東京大学先端科学技術研究センター客員研究員。

photo: Masako Nakagawa



鈴木 康広 出品予定作品

目 [mé]



photo : Takahiro Tsushima

2013 年活動を始める。アーティスト 荒神明香、ディレクター南川憲二、インストーラー 増井宏文を中心とする現代アートチーム。個々の技術や適性を活かすチーム・クリエイションのもと、特定の手法やジャンルにこだわらず展示空間や観客を含めた状況/導線を重視し、果てしなく不確かな現実世界を私たちの実感に引き寄せようとする作品を展開している。主な作品に「たよりない現実、この世界の在りか」/2014年/資生堂ギャラリー/東京、

「Elemental detection」/2016 年/さいたまトリエンナーレなどがある。



目 [mé] 出品予定作品プラン

■ パフォーマンス

問題行動トリオ (野村 誠+佐久間 新+砂連尾 理)

2018 年、香港の大型福祉施設に野村誠が 3 ヶ月レジデンスしているところ訪問した旧知のダンサーニ人と結成した。2019 年、「ノムラとジャレオとサクマの問題行動ショー ヨソモノになるための練習曲」 (豊中市立文化芸術センター) を開催。

野村 誠(のむら・まこと)



作曲/ピアニスト 1968 年名古屋市生まれ。個展「Organic Vegetable」 (アートスペース虹:京都)、グループ展に、「肌理と気配」(ACAC:青森)、「Archway Sound Symposium」(Five Years Gallery:ロンドン)、「野村誠の音楽室」(広島市現代美術館:広島)、「Notations 21」(Jeanie Tengelsen Gallery 他:アメリカ)など。現在、日本センチュリー交響楽団コミュニティプログラムディレクター。



問題行動トリオ《TOYONAKA ART TRIBE ‡2 ノムラとジャレオとサクマの「問題行動ショー」ョソモノ になるための練習曲》(豊中市立文化芸術センター、大阪、 2019 年) ※参考作品

佐久間 新(さくま・しん)



ジャワ舞踊家 1968 年大阪市生まれ。コラボ・即興・コミュニケーションに関わるプロジェクトを推進。からだに問いかけることとそこから生まれる言葉で話す「からだトーク」(大阪大学)、障がいのある人と新しいダンスを創る「ひるのダンス」(たんぽぽの家・奈良)等。共著に「ソーシャル・アート障害のある人とアートで社会を変える」(文芸出版)。

photo: 草本利枝

砂連尾 理(じゃれお・おさむ)

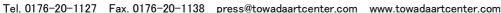


振付家/ダンサー 1965 年大阪市生まれ。1991 年寺田みさことダンスユニットを結成。近年はソロ活動を中心に、障がい者 や高齢者、避難所生活者などとのプロジェクトも手がけ、アートと社会を繋ぐ活動を展開している。著書に「老人ホームで生 まれたくとつとつダンス>-ダンスのような、介護のような一」(晶文社)。立教大学映像身体学科特任教授。

photo:三浦博之



十和田市現代美術館 広報:大谷(おおたに)





■ 第1期 出展作家

津田 道子(つだ・みちこ)



美術家。1980 年神奈川生まれ。東京芸術大学大学院映像研究科で博士号を取得。映像の特性にもとづいたインスタレーションを制作。近年は、神村恵とのユニット「乳歯」としてパフォーマンスも行う。主な展覧会に「あいちトリエンナーレ 2019」「六本木クロッシング2019 展: つないでみる」(森美術館、東京)個展に「The Day After Yesterday」(TARO NASU、東京、2015)などがある。2010 年に青森公立大学国際芸術センター青森にて滞在制作。

2019年にACC のグランティとしてニューヨークに滞在。



津田 道子《あなたは、翌日私に会いにそこに戻ってくるでしょう。》 「オープン・スペース 2016 メディア・コンシャス」展 展示風景 (NTT インターコミュニケーション・センター[ICC]、東京、2016 年) 撮影:山本 糾 ※参考作品

evala



音楽家、サウンドアーティスト。1976 年、京都生まれ。立体音響システムを新たな楽器として駆使し、2016 年より新たな聴覚体験を創出するプロジェクト「See by Your Ears」を始動。音が生き物のように躍動的にふるまう現象を構築し、新たな音楽手法としての"空間的作曲"を提示する。代表作に「大きな耳を持ったキツネ」(Sonar+D, Barcelona 2017)、「Our Muse」(ACC, Gwangju Korea 2018)、SONY Sonic Surf VRを用いた576ch音響インスタレーション「Acoustic Vessel Odyssey」(SXSW, Austin 2018)を展開する。また舞台、映画、公共空間に

おいても多彩なサウンドプロデュースを手掛けている。2020 年 1 月、暗闇の中、映画を「耳で視る」というコンセプトのもと、インビジブル・シネマ「Sea, See, Sheーまだ見ぬ君へ」を世界初上演した。http://evala.jp http://seebyyourears.jp



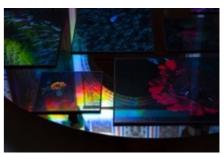
evala 《Sea, Sea, She -まだ見ぬ君へ- Live Ver.》 2019 年 撮影:黒羽 政士 ※参考作品

松原 慈 (まつばら・めぐみ)



1977 年東京生まれ。イメージ、テキスト、光の現象などさまざまな表現で編まれた空間を作り、存在/不在の絶妙なバランスを模索する。主な個展に「The Blind Dream」(Douiria Mouassine Museum、マラケシュ、モロッコ、2014)、「A proposal for a textbook to learn Braille, English, and other languages」(Fonderia Artistica Battaglia Milano、イタリア、2015)、近年の展覧会に「第 21 回 DOMANI・明日展」(国立新美術館、2019)、「Poétique

du geste」(La Graineterie - ウイユ市現代美術センター、フランス、2018)、「あいちトリエンナーレ 2016」(愛知県美術館、2016)、「第 6 回マラケシュ・ビエンナーレ」(エル・バディ宮殿、モロッコ、2016)がある。また、2002 年より有山宙と共同主宰している建築スタジオ ASSISTANT では建築作品を手がけ、代表作に《33 年目の家》(奈良、2013)、《コロガルパビリオン》(YCAM、山口、2013)、《IT IS A GARDEN》(長野、2016)。



松原 慈《Jnan Sbil / Freedom Garden》 2014年 「The Blind Dream」展(Douiria Mouassine Museum、モロツコ)※参考作品



■第2期以降の出展作家

水尻 自子(みずしり・よりこ)

映像作家。1984 年青森県十和田市生まれ。体の一部や身近な物体をモチーフにした感触的なアニメーションを制作する。文化庁メディア芸術祭 アニメーション部門 新人賞、ベルリン国際映画祭 短編コンペティション正式出品など、国内外の映画祭で上映・受賞多数。

青木 千絵(あおき・ちえ)

漆彫刻家。1981 年岐阜県生まれ。金沢美術工芸大学大学院博士課程修了。現在、同大学助教。漆の持つ深い艶から創造を掻き立てられ、人間の存在をテーマに作品制作を始める。人体と抽象形態が融合した独特のフォルムを追及している。主な展覧会に「ヒトのカタチ、彫刻」(2014,静岡市美術館)、「Hard Bodies: Contemporary Japanese Lacquer Sculpture」 (2017,ミネアポリス美術館/アメリカ)ほか国内外の展覧会に多数参加。2019 金沢・世界工芸コンペティション優秀賞受賞。

… 他、海外作家も出展予定。各作家の出展時期と合わせて後日リリースで追加発表いたします。

【開催概要】

展覧会名: Arts Towada 十周年記念「インター + プレイ」展 第1期

会期: 2020年4月18日(土) - 2020年8月30日(日)

■第2期:2020年9月19日(土)-2021年1月11日(月) ■第3期:2021年1月23日(土)-2021年5月30日(日)

開館時間: 9:00 - 17:00 (入場は閉館の30分前まで)

休 館 日: 月曜日(祝日の場合はその翌日、ただし4月20日(月)から5月10日(日)まで全日開館。)

会 場: 十和田市現代美術館

観 覧 料: 企画展+常設展セット券 1200 円。企画展の個別料金は一般 800 円。

団体(20名以上)100円引き。高校生以下無料。

主 催: 十和田市、十和田市現代美術館

協力: 青森公立大学国際芸術センター青森

後 援: 東奥日報社、デーリー東北新聞社、青森放送、青森テレビ、青森朝日放送、十和田市教育委員会

Arts Towada とは

十和田市ではより魅力的で美しい官庁街通りの景観を作り出すとともに、未来へ向けた新しいまちづくりの一環として「Arts Towada」計画に取り組んできた。この計画は官庁街通りという屋外空間を舞台に、通り全体を一つの美術館に見立て、多様なアート作品を展開していくという世界でもまれな試みである。アート作品に加え、十和田市の歴史や美しい自然、そして地域のもつ活力を引き出し未来へつなげていくような仕掛けを随所に盛り込むことで、十和田市を個性あふれる『アートの街』『感動創造都市』として国内外の多くの人々に印象づけることを目指す。その中核施設となる十和田市現代美術館が 2008 年度に開館、引き続いて美術館向かい側の跡地の整備およびシンボルアートの設置を行い、Arts Towada は 2010 年春に完成。

十和田市現代美術館

2008 年に東北初の現代美術館として開館。草間彌生、奈良美智、ロン・ミュエクなど世界の第一線で活躍するアーティスト 33 組の作品 38 点を常設展示。美術館の中だけでなく、周辺には公園のようなアート広場があり、こどもからおとなまで散策しながら魅力あるアートとのふれあいを楽しむことができる。

所在地:青森県十和田市西二番町10-9

TEL: 0176-20-1127 FAX: 0176-20-1138 web: www.towadaartcenter.com





十和田市現代美術館 広報:大谷(おおたに)

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com



【広報用図版】

ご希望画像の作品番号にチェックを入れ、申込みフォームの項目をご記入の上、本用紙を FAX または E-mail にてお送りください。

FAX: 0176-20-1138 / E-mail: press@towadaartcenter.com

TEL: 0176-20-1127 / 住所: 034-0082 青森県十和田市西二番町10-9

十和田市現代美術館 広報 大谷 行



媒体名 媒体ジャンル 新聞/雑誌/美術誌/テレビ/WEB/その他() 御社名 御担当者名 所在地 〒 電話 メールアドレス

【 画像ご使用に際して 】

- ■クレジットは全て明記してください。
- ■トリミングはご遠慮ください。
- ■キャプション等の文字が画像に被らないよう、 レイアウトにご配慮ください。
- ■ご掲載の際は恐れ入りますが校正の段階で美術館 までご確認ください。